

常葉大学に対する改善報告書検討結果

＜大学評価実施年度：2018（平成30）年度＞

＜改善報告書検討実施年度：2022（令和4）年度＞

常葉大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、6点の改善課題及び1点の是正勧告の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

＜改善に向けた大学全体の取り組み＞

本協会による大学評価の結果を受けて、学長が委員長を務める「全学自己点検・評価委員会」において、大学としての課題を明確にし、課題ごとの改善を担当する部署の部局長に対して、改善策を検討するよう諮問した。各部局長は指示を受けて課題に対する改善策を検討し、必要に応じて「大学企画運営会議」に検討内容を諮り、大学の意思決定機関である「部長会」において改善策を決定し、これに基づき課題の解決に取り組んでいる。

今回の改善報告書において課題となっている事項についても、全学的な体制のもとで引き続き改善・向上に取り組むことが求められる。

＜改善課題、是正勧告の改善状況＞

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているとはいえない。

是正勧告については、学生の受け入れにおける学部の定員管理の問題は、改善傾向にあるものの、依然として過去5年間の入学定員に対する入学者数比率が低い学科がある。

改善課題については、大学院における特定課題についての研究の成果の審査基準の整備、学位授与方針に示した学習成果の把握・評価、大学院における定員管理に関する問題がみられるため、引き続き改善に取り組むことが求められる。

個別の提言に対する改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、以下のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

1. 是正勧告

No.	種 別	内 容
1	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	教育学部初等教育課程では、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.25と高い。また、健康プロデュース学部健康鍼灸学科では、過

常葉大学

		<p>去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.77、収容定員に対する在籍学生数比率が0.75と低く、保健医療学部作業療法学科では、収容定員に対する在籍学生数比率が0.88と低いため、学部の定員管理を徹底するよう是正されたい。</p>
	検討所見	<p>広報活動や学生支援を強化しており、教育学部初等教育課程の過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.13、収容定員に対する在籍学生数比率が健康プロデュース学部健康鍼灸学科で0.92、保健医療学部作業療法学科で0.90と改善が認められる。しかしながら、健康プロデュース学部健康鍼灸学科の過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均は0.89と依然として低いため改善が求められる。</p> <p>なお、大学評価時には是正勧告ではなかったものの、健康プロデュース学部こども健康学科では過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.56、収容定員に対する在籍学生数比率が0.51、保健医療学部作業療法学科では過去5年間の入学定員に対する入学者数比率が0.87と低い。さらに保健医療学部理学療法学科では収容定員に対する在籍学生数比率が1.21と高くなっていることから併せて是正されたい。</p>

2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準2 内部質保証
	提言（全文）	<p>内部質保証の推進に責任を負う組織を「部長会」とし、内部質保証の実施機関である「自己点検・評価委員会」の双方が関わって内部質保証の推進に取り組む体制を設けたものの、これらの組織と各学部・研究科、各種委員会等の組織との連関性については、役割分担が不十分であり、規程等においても十分に示されていない。責任主体の役割を含めて、各種組織との連携体制を見直し、より機能的な内部</p>

常葉大学

		質保証システムを整備するよう改善が求められる。
	検討所見	<p>2018（平成30）年度に「常葉大学 全学内部質保証推進組織と内部質保証の指針」を策定しており、その中で、自己点検・評価の実施及びその結果に基づく改善・向上に際しての全学組織及び各学部・研究科の役割分担を明示しており、改善が認められる。また、客観性・妥当性を担保し、内部質保証システムの有効性を高めるため、外部評価を取り入れた。</p> <p>しかしながら、内部質保証に必要な方針の策定に際する「大学企画運営会議」「（全学）自己点検・評価委員会」「（全学）FD・SD委員会」の連携の在り方は「常葉大学全学内部質保証推進組織と内部質保証の指針」「常葉大学内部質保証システム実施図」のいずれにおいても明示していないため改善が望まれる。</p>
No.	種 別	内 容
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	社会環境学部及び保育学部では、教育課程の編成・実施方針に、教育課程の実施に関する基本的な考え方を示していないため、改善が求められる。
	検討所見	社会環境学部及び保育学部の新たな教育課程の編成・実施方針は、教育課程の実施に関する基本的な考え方を示しており、改善が認められる。
No.	種 別	内 容
3	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	国際言語文化研究科修士課程では、特定の課題についての研究の成果の審査基準を明確にしていなため、改善が求められる。
	検討所見	国際言語文化研究科修士課程の特定の課題についての研究の成果の審査基準については、2018（平

常葉大学

		成 30) 年度に現行の「常葉大学大学院 修士論文に関する基準」を「常葉大学大学院 修士論文・課題研究に関する審査基準」に改正しているものの、ホームページ及び学内便覧で公開している情報を更新しておらず、改正前の審査基準を公表しているため、改正後の審査基準を公表するよう改善が求められる。
No.	種 別	内 容
4	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	各学部では、特別研究や卒業研究、国家試験合格率などを成果の指標とし、各研究科では修士論文や課題研究ゼミを測定方法としているものの、いずれも学位授与方針に示した学習成果を測定できていないとはいがたい。今後、学習成果を効果的に測定するとともに、その結果を教育内容・方法の改善に生かしていくよう、改善が求められる。
	検討所見	ワーキンググループを編制し、教育課程の体系的・順次性を明示する取り組みや全学のアセスメントプランの作成を実施している。しかしながら、アセスメントプランに示した各種学習成果の把握方法と学位授与方針との関連が明確でなく、具体的にどのように学位授与方針に示した学習成果を把握し、評価するかを示していないため、引き続き改善が求められる。なお、カリキュラムマップに示した各科目と学位授与方針との関連性をもとに、各学生の学位授与方針の達成度を点数化することを検討していることから、着実に進行し、学生の学位授与方針の達成状況を可視化し、教育内容・方法の改善に生かすことが望まれる。
No.	種 別	内 容
5	基準	基準5 学生の受け入れ

常葉大学

	提言（全文）	収容定員に対する在籍学生数比率について、国際言語文化研究科修士課程では 0.03、環境防災研究科修士課程では 0.35 と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。
	検討所見	国際言語文化研究科修士課程及び環境防災研究科修士課程のいずれについても広報強化等を行ったものの、収容定員に対する在籍学生数比率は国際言語文化研究科修士課程で 0.05 と依然として低く、環境防災研究科修士課程で 0.15 と大学評価時より低くなっている。また、大学評価時に改善課題の対象ではなかった初等教育高度実践研究科の収容定員に対する在籍学生数比率が 0.48 と低くなっている。これは 1 年履修者が存在することに由来するものであるが、収容定員は大学院学則にも明記しているものであるため、大学院の定員管理の適切性について検証を行うことが求められる。
No.	種 別	内 容
6	基準	基準6 教員・教員組織
	提言（全文）	専門職大学院を除く研究科で、固有のFDが行われていないため、適切にこれを実施するよう、改善が求められる。
	検討所見	各研究科において固有のFDを実施しており、改善が認められる。しかしながら、その実施の状況は各研究科で大きな違いがみられるため、大学として教育の質を向上する観点からFDに対する考え方を整理し、更なる取り組みの活性化を図ることが望まれる。

◆ 再度報告を求める事項

なし

以 上